



Flash News

三重大学

第90号

目次

- 「美し国おこし三重さきもり塾」卒塾式
- 医学教育・研究の国際化推進シンポジウム「生体侵襲ダイナミクス」
- 平成22年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」
- 三重大学アカデミックフェア2011
- 日本語教師のための冬季日本語集中講座
- 第2回三重大学発産学官連携セミナーin伊賀2010
- 人文学部国際シンポジウム
- 環境ISO学生委員会が優秀賞を受賞
- 新春産学官連携講演・交流会
- 女性研究者支援事業連携機関連絡協議会専門部会拡大委員会
- シンポジウム「里山・里海の生物多様性を活かした地域づくり～生物多様性条約COP10の成果を踏まえて」

お知らせ&ご報告
・人事チームから
・広報室から

「^{うま}美し国おこし三重さきもり塾」卒塾式

2月12日、「美し国おこし三重さきもり塾」（文部科学省・科学技術振興調整費・地域再生人材創出拠点の形成）の第一期生の卒塾式が行われ、特別課程生17名、入門コース生46名の計63名が卒塾しました。内田淳正学長、三重県防災危機管理部の細野浩副部長（知事代理）、小林英雄工学研究科長、畑中重光塾長による祝辞の後、特別課程生には「美し国三重のさきもり」、入門コース生には「同さきもり補」の認定証が手渡されました。また、卒塾生の交流の場として「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」が設立されました。今後の県内各地の防災分野における卒塾生の活躍が期待されます。



医学教育・研究の国際化推進シンポジウム「生体侵襲ダイナミクス」

1月24日～25日、講堂（小ホール）で文部科学省採択事業プログラム「国際推薦制度による留学生教育の実質化」と「保健医療の国際化に対応する医学教育」の一環として医学部・医学系研究科主催の英語による標記シンポジウムを開催しました。講師に学内外の著名な研究者や本学の卒業生でかつ海外で活躍中の医師・研究者らを招き、教育・研究内容に関する活発な質疑応答が展開されました。特に本学の卒業生で海外武者修行中、あるいは海外で独立して自分のラボを持つ演者らによる躍動感あふれる発表に参加者は感銘し、「ぜひ、次回開催を」との声があがりました。

平成22年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」

1月24日～25日、秋葉原コンベンションホールで開催された標記フォーラムにおいて、本学が取り組む「隣接学校園との連携を核とした教員モデル」（代表：後藤太一郎教授・教育学部）に関するブースを出展し、事業内容と平成21年採択後の成果報告をしました。2日間で240件の特色ある取り組みの紹介がありましたが、大学、教育委員会、連携校区との協働による実地研究と教育実習の体制づくりや、学修サポート室の業務など、日頃の地道な取り組みに対しての質疑応答や意見交換が行われました。

三重大学アカデミックフェア2011



ポスターセッションの様子

2月11日、講堂においてアカデミックフェア2011を開催しました。キャリア教育・実践・体験に基づいた研究発表や、日常的疑問を探る法則フェスタ、ポスターセッション、本学の魅力紹介などを行いました。また、各界で活躍中の方々をお招きし、「仕事・生きること」についてご講演いただくシンポジウム「キャリアデザイン2011」も開催しました。今回、ピアサポーター学生員会のメンバーが運営に加わり、学生200名の力がみなぎる集いとなりました。



キャリアデザイン2011

日本語教師のための冬季日本語集中講座

1月6日～21日、国際交流センターにおいて標記講座を開催しました。タスマニアの小・中・高校で日本語を教えている本学協定校のタスマニア大学社会人大学院生5名が、日本語のブラッシュアップのため、日本語や日本事情を学びました。本学附属四校園、津高校の訪問、伊勢型紙の見学、茶道、絵本の読み聞かせ体験、日本人学生チューターとのディスカッションなど、充実した期間を過ごしました。「ぜひ、またこのような機会を利用して日本語を磨きにきたい」と述べていました。



第2回三重大学発産学官連携セミナーin伊賀2010

1月28日、伊賀市のヒルホテルサンピア伊賀において、標記セミナーを開催しました。セミナーでは、「地域連携への取り組みと三重大学発果樹栽培の新技术」（平塚 伸フィールドサイエンスセンター長）と題した基調講演が行われ、「組み込み機器の設計開発」（巽 吉史氏・日本ソフトウェアサービス株式会社）、「酵素を使用した水質改善剤の研究・実用化」（小原貞和氏）、「有害獣として捕獲した獣肉等の有効活用」（中森律子氏・有限会社芭蕉農林）の報告がありました。当日は、県や市、地元企業などの関係者約137名が参加し、有意義なセミナーとなりました。

人文学部国際シンポジウム

1月30日～31日、総合研究棟Ⅱメディアホールにおいて国際シンポジウム「グローバル化と市場経済移行のもとでの行政法の変化-行政法モデルと比較行政法の理論をもとめて」を開催しました。アジアからは中国、ベトナム、カンボジアおよびインドネシア、欧米からはアメリカ、ドイツ、アイルランドの行政法学者が報告し、台湾や韓国、ウズベキスタン等の研究者も参加しました。法整備支援、ヨーロッパ評議会およびEUと様々なレベルで比較行政法の課題を議論し、日本公法学会の小早川光郎理事長および前日本法社会学会の広渡清吾理事長からコメントをいただきました。このシンポジウムは日本における比較法の発展への問題提起となりました。



環境ISO学生委員会が優秀賞を受賞

2月5日～6日、東京大学安田講堂で開催された、37都道府県47団体が出場する『低炭素杯』全国フォーラム（主催：低炭素地域づくり全国フォーラム実行委員会）において、本学の環境ISO学生委員会が三重県代表として出場し、「三重大学における環境ISO学生委員会を活動主体とする3R活動」について発表を行い、優秀賞を受賞しました。これは、学生の自主的な3R活動が全国的にも高く評価されたもので、今後も世界一の環境先進大学を目指す本学の推進役を担うことが期待されます。



新春産学官連携講演・交流会

本学と株三重TLOとの共同主催で2月7日、講堂で標記交流会が開催されました。内田淳正学長ならびに三重TLOの円城寺英夫代表取締役社長による挨拶の後、工学研究科の駒田諭准教授、今西誠之准教授および生物資源学研究科の寺西克倫教授から研究紹介がありました。引き続き、野呂昭彦三重県知事の挨拶の後、豊田通商株式会社の清水順三代表取締役社長による「豊田通商の将来的取り組みについて」と題した講演が行われました。三重TLO会員企業をはじめ満席の参加者で盛況な講演会となりました。また、清水社長、内田学長を囲んで和やかな雰囲気の中、懇親会が催されました。



女性研究者支援事業連携機関連絡協議会専門部会拡大委員会

2月9日、女性研究者支援事業の標記委員会が開催されました。昨年10月に採択された「女性研究者支援事業連携機関による共同宣言」を踏まえて、連携各機関、県の研究機関から女性研究者が集い、振興調整費終了後の連携の維持拡大について積極的に話し合いを行いました。また、鈴鹿工業高専とムードルのチャットを利用して、リアルタイムで会議に参加するなど、連携のための仕組みも整えられつつあります。本学では、来年度から男女共同参画推進室を設立、本支援事業の継続、連携の維持拡大、男女共同参画推進室事業の中で実施していく予定です。



シンポジウム「里山・里海の生物多様性を活かした地域づくり～生物多様性条約COP10の成果を踏まえて」

2月12日、講堂で標記シンポジウムが開催されました。朴 恵淑学長補佐（環境ISO担当）と石原正敬菰野町長からCOP10の成果と課題についての基調講演があり、環境ISO学生委員を交えて三重の里山・里海の生物多様性を活かした地域づくりについて活発な議論が行われました。同時に、亀山市、志摩市、中部電力や三重県内の環境活動団体など、14団体のブース展示も行われ、約150名の参加者と共に意見交換や情報共有ができ、大変有意義なシンポジウムとなりました。



お知らせ&ご報告

人事チームから 2月8日～10日、総合研究棟Ⅱ第2・3会議室で三重大学教室系技術職員研修を実施しました。
2月10日、本学VBL棟2階セミナー室で平成22年度三重大学技術発表会を開催しました。

広報室から 2月1日、総合研究棟Ⅱ第2・3会議室で第2回定例記者懇談会を開催しました。

